

大阪市立大学大学院理学研究科・理学部



地球学教室ニュースレター No.7

Newsletter No.7, Department of Geosciences,
Graduate School of Science, Osaka City University

昨年4月に再編した新しい理学研究科, その中で旧地質学専攻は旧生物学専攻と合併し, 生物地球系専攻となって1年間が経過しました. 本来はこの中で学部と大学院の比重が逆転し, 教員は大学院専任・学部兼任という, いわゆる大学院重点化に変わるわけです. しかし, 正式かつ実効的な学部, 研究科の名称変更, 予算措置等はまだ進行中あるいは検討中です.

昨年度は, 理学部長であった物理学科の児玉隆夫教授が学長に選出され, 新しい理学部長は生物学科の谷口誠教授になりました. 地球学科では, 数年来カリキュラム委員会委員長を務めた相川教授が, ようやくお役御免になりました. 新年度は学生部委員(中川教授), 情報教育関係委員やインターネット講座(塩野教授, 升本助教授)などが大変です. 教室主任は吉田から八尾教授にバトンタッチしました. 昨年度の地球学教室は, 教員16人, 大学院生43人, 研究生7人, 学生72人, 合計138人の構成でした. 今年4月には学部と大学院生合わせて30数人が卒業, あるいは中途退学して, 就職あるいは大学院へ進学しました. 理学士17人理学修士8人と理学博士5人が巣立ったこととなります.

教室では, 最近中古導入の電子線微小領域測定装置や質量分析計が, 奥平, 益田両教員らの努力で活用されつつあり, 大学院生らの研究に質的变化をもたらしつつあります. 教室教員や大学院生らによる1998年1年間の公表学術論文は94編, 学会等での学術講演は124題で, 国際・国外誌あるいは国際学会等での発表も多く, ここ数年来の国際化の傾向は変わりません. 理学部地球学英文紀要 Journal of Geosciences, Osaka City University の国際レフェリー制も確立し, 本年4月発行の42巻も, レフェリー24人のうち7人が国外研究者です.

地球学教室談話会は根本助手のお世話で2ヵ月に1度程度のペースで行われ, とくに学外, 卒業生や教室OB教員に好評です. 地球学野外実習は泉南地域から和泉山脈北斜面を中心に, 古山助教授の主導で実施されました. この実習の機会に恒例の教室交流会が, また, 3月には白馬セミナーハウスで地球スキーの会が行われ(根本助手の音頭), 学部, 大学院, 教員, OBらが多数参加しました. ビッグニュースはボート祭で, 教員・学生らによる“INFRAREDS号”(篠田, Rajesh, 新見, 三好, 高尾)が学部の部で優勝, “MUDDA-KHUNA-PAI号”(中条, 谷, 馬場, 片岡, 富士本)が「最高の艇名賞」を獲得しました. 新年度の特筆イベントは8月の理学部創立50周年記念行事です. 祝賀会, 講演会, その他いろいろな行事が予定されています. ご関心の皆様にはぜひご参加下さい.

不況の波は地学関連産業にも大変に厳しい状況を負荷していると聞いています. 本学も今年は施設建設費関係予算が半減し, 念願だった理学部学舎新築計画も再び延期されてしまいました. しかし幸いなことに, 教室卒業生の就職については, 大学院への進学者が多数であることもあり, 希望者が全員就職できる状況を保っています. 関係の皆様のご協力に深く感謝するとともに, 今後ともよろしく願いする次第です. (吉田 勝)

< 目 次 >

1. 地球学教室の構成および研究内容	… 2	3. 地球学教室の研究活動	… 5
1-1. 教室の構成	… 2	3-1. 1998年研究業績	… 5
1-2. 構成員の研究内容	… 2	3-2. 1998年度海外研究	… 13
1-3. 1999年度学生・院生構成数	… 3	3-3. 1998年度研究補助金等	… 13
2. 地球学教室の教育活動	… 3	3-4. 1998年度受賞	… 14
2-1. 学部・大学院教育	… 3	4. 地球学教室関係行事・出版物等	… 14
2-2. 1999年度カリキュラム・集中講義等	… 3	4-1. 1998年度各種行事	… 14
2-3. 1998年度卒業論文・修士論文・博士論文	… 4	4-2. 出版物	… 15
2-4. 1998年度教員の兼職	… 5	4-3. その他	… 15

1. 地球学教室の構成および研究内容

1-1. 教室の構成

地球学教室は「地球物質進化学講座」と「環境地球学講座」から構成されています。地球学物質進化学講座は、「地球物質学Ⅰ分野」、「地球物質学Ⅱ分野」、「地球史学分野」、環境地球学講座は、「人類紀自然学分野」、「都市地盤構造学分野」、「地球情報学分野」からなります。

地球学教室の教員定数は16名で、現在数は16名です。大学院理学研究科生物地球系専攻の院生のうち、地球学教室所属の前期博士課程の院生数は24名(M1・2;12名)で、現在数25名、後期博士課程の院生数は16名(D1;6名, D2;6名, D3;4名)で、現在数22名です。

1-2. 構成員の研究内容

本年度の各研究分野の構成員および研究課題。

[地球物質進化学講座]

地球物質学Ⅰ分野 (Mineralogy, Petrology and Geochemistry-I)

地球科学現象の物理・化学過程の解明を目的として、地球物質の結晶構造・化学組成・マイクロ、マクロな組織の変化と規則性を原子・鉱物レベルで研究する。

- 相川信之[教授] 鉱物の微細構造、微細組織の形成過程。
- 益田晴恵[助教授] プレート収束域の物質循環。
- 篠田圭司[講師] 鉱物の赤外分光学的研究。
- 新見尚之[D3] mFTIR を用いた鉱物中の水関連種のキャラクタリゼーション。
- 三好直哉[D3] 天然石英中の OH 欠陥について。
- 松崎琢也[D1] 火砕流堆積物中のクリストバライトの格子定数について。
- 田中邦明[M2] 玄武岩の熱水変質過程から見る TAG 熱水マウンドの形成機構。
- 中川聖子[M2] 南海トラフの Site808 における火山ガラスの続成作用による変質とその化学組成。
- 伊藤浩子[M1] 大阪北摂地域における岩石土壌中のヒ素の化学形態と地下水へへの溶出過程。

地球物質学Ⅱ分野 (Mineralogy, Petrology and Geochemistry-II)

同位体元素から超大陸やマントルまで、現在から地球誕生の46億年前までの広い時間・空間を研究対象として、地球物質の構成や変化とそれらの規則性を岩体・岩石レベルで研究する。

- 吉田 勝[教授] 原生代 Gondwana ランドの構造と岩石。
- 古山勝彦[助教授] 新生代の火山地質及び岩石学。
- 奥平敬元[講師] 変成作用の素過程と下部地殻進化。
- 馬場壮太郎[研究生] グラニュライトと大陸地殻の進化、スコットランド北西部先カンブリア代変成岩類の構造・岩石。
- Rajesh H. M.[日本学術振興会特別研究員] Alkaline magmatism in southwestern India: implications for East Gondwana reconstructions 南インドグラニュライト帯のアルカリ貫入岩類の岩石とテクトニクス。
- Rajneesh Kumar [D3] Structural evolution of Archean-Proterozoic boundary in southeastern part of India 南インドの始生代-原生代境界のテクトニクス。
- B. Hari Prasad[D3] Structural evolution of Archean

Nellore schist belt, southeast India 南インド東ダルワールクラトンの変成作用と構造運動。

Biju S. S.[D1] Granitic masses of the Aravalli-Delhi Fold Belt: Their Petrographic Characterization and Tectonogenesis 北西インドアラヴァリー-デリー帯の花崗岩類-岩石学的特徴と造構史における意義。

井門令子[M1] 角閃石マイロナイトにおける化学反応。

地球史学分野(Earth History)

地球表層部の地層や化石に残されている記録を手掛かりにして、地球の歴史をひもとく、地球の誕生から現在・未来への地球環境の変遷史を解明する。

- 八尾 昭[教授] 中・古生代地球史: 放散虫類の古生物科学。
- 前島 渉[助教授] 碎屑物質の堆積作用: 堆積盆解析。
- 江崎洋一[講師] 中・古生代の地球変遷史: 化石腔腸動物の系統発生。
- 桑原希世子[日本学術振興会特別研究員] 放散虫化石からみた古生代/中生代境界。
- 舟川 哲[研究生] 放散虫の系統分類。
- 干 浩[D3] 南中国の上部古生界の放散虫化石層序。
- 柏木健司[D1] 紀伊半島における黒瀬川帯と秩父帯の地質関係。
- 西原ちさと[M2] 美濃帯のマンガノジュール中のジュラ紀中世放散虫化石群集。
- 林 美明子[M2] インドの Gondwana 堆積盆の堆積学的研究。
- 土居寿子[M1] 古生代サンゴの形態変化。
- 足立奈津子[M1] 福地層におけるデボン紀微生物類。
- 原田嘉彦[M1] 秋吉帯下部石炭系における生物礁の初期形成過程。
- 安原有美[M1] 古生代四射サンゴの増殖様式と成長パターン。

[環境地球学講座]

人類紀自然学分野 (Natural History of Anthropogene)

地球上に人類が誕生して以降、現在までの最新の地質時代である人類紀(第四紀)に焦点をあて、その自然環境の変遷史、人間の活動と自然環境の相互作用、都市地盤の地質現象、短尺度の年代決定法の研究を行う。

- 熊井久雄[教授] 第四紀層序学: 水理地質学。
- 吉川周作[助教授] 第四紀地質学: 火山灰層序学。
- 三田村宗樹[助教授] 第四紀地質学: 都市地質学。
- 小倉博之[研究生] 火山ガラスを指標とした火山灰降灰層準と堆積物の攪乱に関する研究。
- 内山 高[研究生] 南八ヶ岳火山の形成・発達史、古地磁気層序学。
- 山本裕雄[D3] 西南日本第三系の層序学的研究。
- 藤田正勝[D3] 東アジアの第四紀偶蹄類、特に日本と中国の第四紀イノシシ類とシカ類。
- 福間 進[D2] 最終処分場と地質環境。
- 内山美恵子[D2] 大阪平野の水理地質学的研究。
- 片岡香子[D2] 大規模噴火に伴う再堆積火山碎屑物に関する研究。
- Djadjang Jedi Setiadi[D2] Stratigraphy and depositional

processes of volcanoclastic rocks of Mount Guntur, West Java, Indonesia.

本郷美佐緒[D1]日本列島における中期更新世の花化石群集について.

石井陽子[D1]大阪周辺地域の完新世環境変化に関する研究.

川村教一[D1]四国讃岐平野の上部更新統・完新統の層序学的研究.

Dicky Muslim[D1]The behaviour of rock formation system around Quaternary fault system.

北村光史[M2]神戸地域内陸部の地下層序.

神谷俊一郎[M2]ワニ類化石-とくに長吻型のワニ-.

銭 祥富[M2]大阪平野南部に分布する段丘層の層序と編年.

井上 淳[M2]堆積物中の炭素片分析.

吉村有加[M2]縄文時代早期人骨の形態.

佐藤香織[M2]八ヶ岳西麓における土地改変による水収支の変化.

釜中美歩[M2]大阪平野長原遺跡の古土壌に関する研究.

Faizal Muhamadsyah [M2] 3-D Geologic models using existing geological information.

安原盛明[M1]貝形虫を用いた完新世古大阪湾の古環境復元.

富永好明[M1]段丘と活断層・活構造.

都市地盤構造学分野(Urban Geosciences)

都市地盤の構造を材料科学的視点から研究し、地盤災害の究明や対策に必要な基礎データを蓄積・検討する.

中川康一[教授]地質の動力学:大阪平野の地質構造.

根本泰雄[助手]応用地球物理学:西南日本の地殻構造と地震活動.

宇田英雄[技術員]コンピュータ解析:都市地盤構造の可視化.

井上直人[D3]物理探査を用いた地下構造解析.

Pathak Dinesh[D1]地下水探査に関する研究.

柴山元彦[D1]活断層の活動度調査.

川村大作[M2]地質の動力学.

地球情報学分野(Geoinformatics)

情報科学的観点から地球に関する情報や知識を有機的に統合し、諸現象の関係性や法則性、地球情報の論理構造、地球環境の予測などを研究する。特に、野外調査データから地質構造を決定する作業に関連する基礎理論やコンピュータ処理法の開発あるいはGISを用いた危険度予測(Hazard mapping)が当面の研究課題.

塩野清治[教授]地質学的方法の情報科学的体系.

升本眞二[助教授]地球情報の定式化・表現方法.

Venkatesh Raghavan[助教授:理学研究科兼任:学術情報総合センター所属]空間情報データベース, GIS, リモートセンシング.

米澤 剛[D1]時系列データの数値解析法.

山口久美子[M2]生層序学を形式表現する数学構造.

阪本寛子[M1]景観生態学の基礎研究.

奥山裕樹[M1]ボーリングデータを用いた大阪市内の地下地質構造の推定.

根本達也[M1]新潟県小千谷地域の地すべりに関する研究.

1-3. 1999年度学生・院生成績

1999年度の地球学科学生在籍数(3・4年は編入学学生数を含む)および理学研究科生物地球系専攻のうち地球学教室所属の院生数(社会人・外国人留学生数を含む)は、以下の通りです。なお、カッコ内は女子学生数を示します。

1年	2年	3年	4年	合計	
16(3)	19(4)	14(5)	25(3)	74(15)	
M1	M2	D1	D2	D3	合計
11(6)	14(7)	10(2)	4(2)	8(0)	47(17)

2. 地球学教室の教育活動

2-1. 学部・大学院教育

○学部

本年度の地球学科入学生は16名(推薦入学2名を含む)です。また、一般編入学試験合格者2名と社会人編入学試験合格者2名が3回生に編入されました。

地球学科では多様な学生募集(入学試験)を行っています。平成12年度の募集は以下の通りです。なお、募集の詳細については時期を追って理学部のホームページ等で案内します(<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp>)。

- ・一般編入学:募集人員2名(学力試験7月14日)
- ・社会人編入学:募集人員3名(学力試験11月中旬)
- ・推薦入学:募集人員2名(学力試験11月中旬)
- ・一般選抜(前期日程):募集人員9名(学力試験2月)
- ・一般選抜(後期日程):募集人員3名(学力試験3月)

○大学院

理学研究科の再編により大学院生の募集人員が増加しています。前期博士課程の試験が9月上旬、後期博士課程の試験が2月上旬に行われます。意欲的な学生の応募を待っています。なお、後期博士課程では研究意欲旺盛な社会人が在職しながら正規の大学院生として在学できる社会人特別選抜制度を継続しています。今年度も若干名を募集しますので、関係の研究室にお問い合わせ下さい。

2-2. 1999年度カリキュラム・集中講義等

地球学科教員が担当する全学共通科目、地球学科提供の専門科目および大学院生物地球系専攻の科目は次の通りです(*は地球学科必修科目)。

○1~4年生全学共通科目

大阪の自然(三田村・古谷),地球の科学(篠田・領木),地球の科学[二部](奥平・領木),循環の科学(益田他),実験で知る自然の世界(篠田他),一般地球学A-I*(塩野),一般地球学A-II*(前島),一般地球学B-I(八尾),一般地球学B-II(古山),地球学実験A*(古山他),地球学実験B*(吉川他),建設地学(相川他),建設地学実習(篠田他)

○学部専門教育科目(地球学科)

1年次:地球学概論I*(熊井),地球学概論II*(吉田),地形・地質投影法(前島),地質調査法I・同実習(三田村・全教員),地球学野外実習I(三田村・全教員)

2年次:地球物質学I(相川),地球物質学I実習(篠田・相川),岩石学I(吉田),岩石学I実習(奥平),岩石学II(古

山・奥平), 岩石学 II 実習(奥平・古山), 地球史学原論(八尾), 古生物科学(八尾・江崎), 古生物科学実習(江崎・八尾), 物理探査学概論 I(三田村), 地球情報基礎論(塩野), 地球情報基礎論実習(塩野・升本), 地球ダイナミクス I(升本), 地質調査法 II(三田村他), 測量及び地質調査法 II 実習(三田村他), 地球学野外実習 II(三田村・全教員)

3 年次: 地球学演習 I*・II*(主任・全教員), 地球物質学 II(相川・篠田), 地球物質学 II 実習(相川・篠田), 地球物質反応学 I(益田), 地球物質反応学 I 実習(益田), 地球物質反応学 II(相川・篠田), テクトニクス(吉田・八尾), 堆積学(前島), 地球史学 I(江崎・八尾), 地球史学 II(熊井), 積成地質学 I(吉川), 積成地質学 I 実習(三田村), 積成地質学 II(吉川), 積成地質学 II 実習(前島), 地質力学 I(中川), 地質力学 I 実習(根本・中川・三田村), 地質力学 II(中川), 地質力学 II 実習(根本・三田村), 物理探査学概論 II(中川), 物理探査学概論 II 実習(根本・三田村), 地球環境情報学(升本), 地球環境情報学実習(升本), 測量及び測地学(塩野), 地質調査法 III(三田村他), 測量及び地質調査法 III 実習(三田村他), 地学野外実習 III(三田村・全教員)

4 年次: 地球学演習 III*(主任・全教員), 地球物質化学(相川・益田・篠田), 地球物質化学実習(益田・篠田), 変成地質学(奥平), 人類紀自然学(熊井), 都市地盤構造学(中川), 地球情報システム論(塩野), 情報基礎演習 I・II(升本・三田村), 特別研究*(全教員)

○学部集中講義

赤羽貞幸(信州大学教育学部)地球環境学特論 III

小林洋二(筑波大学地球科学系)地球学特論 III

在田一則(北海道大学理学部)地球学特論 VI

○大学院

大学院理学研究科の再編により, 平成 10 年度以降の入学生・進学生には, つぎの科目が開講されます(在学中の地質学専攻の大学院生には, 従来通りの科目を提供)。

[前期博士課程]

地球物質進化学分野: 地球物質学特論 I(相川), 地球物質学特論 II(益田), 岩石学特論 I(吉田), 岩石学特論 II(古山), 地球進化学特論(八尾), 堆積論(前島), 地球物質進化学演習(各教員)

環境地球学分野: 人類紀自然学特論 I(熊井), 人類紀自然学特論 II(吉川), 都市地盤構造論(中川), 都市地盤環境論(三田村), 地球情報学特論(塩野), 環境地球学演習(各教員)

学際分野: 地球情報学(升本), 地球進化学(八尾)

特別研究: 前期特別研究(各教員)

[後期博士課程]

地球物質進化学ゼミナール(各教員), 環境地球学ゼミナール(各教員), 後期特別研究(各教員)

○大学院集中講義

渡邊暉夫(北海道大学大学院)地球物質進化学特別講義

田崎和江(金沢大学大学院)環境地球学特別講義

○インターネット講座

平成 8 年からはじめられた市民を対象に大学の教室と同じレベルの講義を行う講座です。本年度から, 理学部と学術情報総合センターとの共同で, 『地球科学における GRASS GIS 入門(升本眞二・Raghavan V.)』を行っています。受講生の申し込みは終了しましたが, 下記の URL でご覧になれます。

(<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/~masumoto/vuniv99/index.html>)

2-3. 1998 年度卒業論文・修士論文・博士論文

○卒業論文

伊藤浩子: 大阪北摂地域における岩石・土壌中のヒ素の化学形態と地下水への溶出過程。

井門令子: 大阪府岸和田市南部における河合マイロナイトの周辺の角閃岩の変形微細組織と造岩鉱物の化学組成変化。

富士本晃子: 大阪府岸和田地域に産する河合マイロナイト帯における石英の変形。

安原成明: 大阪市北堀江～南船場地域に分布する難波累層の貝形虫化石群集からみた古環境変化。

國乗麻子: 長池堆積物の珪藻分析による水域環境の変遷。

田中美紗子: 大阪府下の 4 つのため池堆積物からみた重金属汚染の歴史。

岡本順平: 有馬-高槻構造線周辺(宝塚・箕面地域)地震被害域での重力異常。

佐藤慶治: 断層破砕帯の細粒部組成と鉱物のひずみ特性-柳ヶ瀬断層・五助橋断層・野島断層-

奥山裕樹: 大阪市内の地下地質構造の推定-助川(1997)の地下構造推定システムを用いた例-

木村彰宏: 地形のフラクタル次元を求めるための 3 次元 Box-counting 法を用いたプログラムの開発。

塩谷隆三: 花粉データを用いた主成分分析における諸問題。

根本達也: 新潟県小千谷地域の地すべり要因の研究-地質構造と地形面の関係-

阪本寛子: 現存植生図と土地利用図の数式化。

足立奈津子: デボン系福地層群の生物群と生息環境。

大川和博: 中新統国見累層の扇状地堆積作用。

原田嘉彦: 秋吉帯下部石炭系における生物礁の初期形成過程。

安原有美: シルル紀四射サンゴの増殖様式-*Stauria favosa* の例-

○修士論文

高尾夏実: 変形石英中における流体包有物の大きさ, 形態, 密度の変化。

(主査 相川信之; 副主査 吉田 勝, 篠田圭司)

Dicky Muslim: Neotectonic analysis of the lowermost part of Osaka Group around Uchihata Quaternary Fault in southern part of Senboku area, Osaka Prefecture, Japan.

(主査 熊井久雄; 副主査 中川康一, 三田村宗樹)

東脇愛子: 大阪堆積盆地地下の第四系の帯磁率層序。

(主査 熊井久雄; 副主査 中川康一, 吉川周作)

森川美幸: 珪藻化石による過去 2 万年間の琵琶湖環境変遷史。

(主査 熊井久雄; 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

Dinesh Pathak: Electromagnetic (CSAMT) method applied in urban area to explore subsurface geo-electrical structure: A case study along Yamato River, central Osaka.

(主査 中川康一; 副主査 塩野清治, 三田村宗樹)

織田聖子: イギリスのオルドビス紀サンゴ化石および四射サンゴの初期系統関係について。

(主査 八尾 昭; 副主査 熊井久雄, 江崎洋一)

柏木健司: 紀伊半島における黒瀬川帯と秩父帯の構造関係。

(主査 八尾 昭; 副主査 吉田 勝, 江崎洋一)

谷口雅章:美濃帯犬山地域の中部三畳系チャート連続層序断面における放散虫化石群集の変遷.

(主査 八尾 昭;副主査 熊井久雄,江崎洋一)

○博士論文

Bindu R. S.

Geochronological study of Precambrian terrains of South India and surrounding Gondwana areas - First attempt on electron microprobe chemical U-Pb-Th method. (1997年度)

(主査 吉田 勝;副主査 相川信之,奥平敬元)

Rajesh H. M.

Characterization and origin of alkaline and calc-alkaline aluminous A-type granitoids from southwestern India: Implication for Gondwana tectonics.

(主査 吉田 勝;副主査 相川信之,古山勝彦,奥平敬元)

Elfatih Abdalla Farah

Groundwater resources of Khartoum, Sudan: A qualitative and quantitative evaluation.

(主査 熊井久雄;副主査 中川康一,吉川周作)

Umeda Masaki (梅田真樹)

Stratigraphy and tectonics on the Siluro-Devonian in the Japanese Islands.

(主査 八尾 昭;副主査 吉田 勝,江崎洋一)

Dozen Kaori (道前かおり)

Geochemical study of fine-grained clastic rocks for evaluation of crustal evolution of the Paleozoic and Mesozoic terranes of Japan.

(主査 八尾 昭;副主査 吉田 勝,益田晴恵)

Nakajo Takeshi (中条武司)

Morpho-dynamic development and facies organization of deltas: examples from Tertiary and Quaternary of southwestern Japan.

(主査 八尾 昭;副主査 熊井久雄,前島 涉)

2-4. 1998年度教員の兼職

相川信之	金沢大学理学部『分光法と鉱物学』
吉田 勝	東北大学大学院理学研究科『地殻化学特選講義 I』 神戸大学発達科学部『学術講演』 日本学術会議国際学術協力研究連絡委員会委員
八尾 昭	大阪教育大学教育学部『自然史特論』 広島大学理学部『放散虫化石層序学』 岡山大学理学部『古生物学』
前島 涉	滋賀大学経済学部『地球の構造』
熊井久雄	愛媛大学理学部『環境地質学』 和歌山大学システム工学部『地形学』 長野県防災委員会専門部会委員 NEDO 土壤汚染修復技術推進委員会委員 大阪府自然環境保全審議会委員
吉川周作	大阪府活断層調査委員 日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員
三田村宗樹	大阪女子大学『地学 II・地学実験 II』 和歌山大学『災害地質学』
根本泰雄	財団法人 防災研究協会 非常勤研究員
升本真二	大阪女子大学『地学 I・地学実験 I』

3. 地球学教室の研究活動

3-1. 1998 年研究業績

地球学教室の教職員・大学院生・研究生などによる 1998 年中に刊行された著書・論文・報告書および学会等の主要な講演のリストを分野別にまとめました。

○地球物質学 I 分野

<論文>

Fryer P., Fujimoto H., Sckine M., Johnson L., Kasahara J., Masuda H., Gamo T., Ishii T., Ariyoshi M. and Fujioka K. (1998) Volcanoes of the southwestern extension of the active Mariana Island Arc : New swarth-mapping and geochemical studies. *The Island Arc*, 7, 596-607.

Masuda H., Nakamura M., Tanaka K., Chiba H., Gamo T., and Fujioka K. (1998) Hydrothermal basalt alteration at the surface of the TAG active mound, MAR 26 ° N. *Proc. 9th International Symp. Water-Rock Interaction at Taupo*. Eds. Arhart G. B. and Hulston J. R. 747-750. A. A. Balkema/Rotterdam/Brookfield.

益田晴恵(1998) 海底熱水系とその周辺での REE の挙動. *月刊海洋*, 30, 786-790.

Satish-Kumar M. and Niimi N. (1998) Fluorine-rich clinohumite from Ambasamudram marbles, Southern India: Mineralogical and preliminary FTIR spectroscopic characterization. *Mineralogical Magazine*, 62, 509-519.

Shinoda K. and Aikawa N. (1998) Interlayer proton transfer in brucite under pressure by polarized IR spectroscopy to 5.3 GPa. *Phys. Chem. Minerals*, 25, 197-202.

<報告書>

益田晴恵・三田村宗樹(1998)大阪府北摂地域のヒ素含有地下水の原因物質の究明と形成機構. 平成9年度日本生命財団研究奨励助成報告書.

<主な学会講演>

Fryer F., Stern R. J., Sun C.-H., and Masuda H. (1998) Distribution of volcanism in the southern Mariana Arc and Backarc. *EOS Transactions, Amer. Geophys. Union*, 78, V-22B-7.

Gamo T., Okamura K., Hasumoto H., Ishibashi J., Nakayama E., Obata H., Masuda H. and KH-98-1 Shipboard Scientific Party (1998) Evidence for submarine hydrothermal activity at the southernmost Mariana Trough. *EOS Transactions, Amer. Geophys. Union*, 79, F398 (OS71B-22).

伊吹祐一・益田晴恵・殿界和夫(1998)大阪北摂地域のヒ素含有地下水の水質の特徴と溶出メカニズム. 1998 年地球惑星科学関連学会合同大会, 東京, 1998 年 5 月.

益田晴恵・三田村宗樹・北田奈緒子・七山太(1998)大阪層群中のヒ素の分布と地下水中への溶出機構. 1998 年地球惑星科学関連学会合同大会, 東京, 1998 年 5 月.

益田晴恵・蒲生俊敬・KH-98-1-3 乗船研究者一同(1998)マリアトラフ最南部の火成活動の地球化学的性質. 1998 年日本地球化学会年会, 福岡, 1999 年 10 月.

Masuda H., Gamo T. and Shipboard Scientific Party KH-98-1, Leg 3(1998) Present volcanisms of arc and back-arc spreading axis in the southern end of the Mariana Trough. *EOS Transactions, Amer. Geophys. Union*, 79, F398 (OS71B-21).

三田村宗樹・益田晴恵(1998)大阪周辺のポーリングコアの砒素濃度. 第 8 回環境地質学シンポジウム論文集, 85-88. 1998 年 11 月.

- 中川聖子・益田晴恵・奥平敬元(1998) ODP Site 808 の堆積物コア中の火山ガラスの続成変質過程. 1998 年日本地球化学会年会, 福岡, 1998 年 10 月.
- 新見尚之・山本哲也 (1998) グラニユライト相ミグマタイトのザクロ石ポーフィロブラスト中の包有物. (An inclusion in garnet porphyroblast in granulite facies migmatite.) 1998 年日本鉱物学会年会, 福岡.
- Rona P. A., Fujioka K., Ishihara T., Chiba H., Masuda-Nakaya H., Oomori T., Kleinrock M. C., Tivey M. A., Watanabe M. and Lalou C.(1998) An active low-temperature hydrothermal mound and a large inactive sulfide mound found in the TAG hydrothermal field, Mid-Atlantic Ridge 26N, 45W. EOS Transactions, Amer. Geophys. Union, 79, (T42D-10).
- 田中邦明・益田晴恵・奥平敬元・藤岡換太郎(1998)TAG 熱水マウンド斜面から採取された岩片の変質過程と意義. 1998 年地球惑星科学関連学会合同大会, 東京, 1998 年 5 月.
- 三好直哉・相川信之・篠田圭司(1998) X線照射・アニーリングによる天然石英のOH吸収変化. 1998年度日本鉱物学会年会, 福岡.
- 地球物質学 II 分野
< 著書・編書 >
- Yoshida M., Arima M., Santosh M. and Rao A. T. (eds.) (1998) Eastern Ghats and Surrounding Areas within East Gondwana, Gondwana Research Group Miscel. Pub. 7. Gondwana Research Group, Osaka, 463 p.
- Rao A. T., Divi S. R. and Yoshida M.(eds.)(1998) Precambrian Crustal Processes in East Coast Granulite-Greenstone Regions of India and Antarctica within East Gondwana. Gondwana Research Group Mem. 4, Field Science Publ, Osaka, 198p.
- < 論文 >
- Baba S.(1998) Proterozoic anticlockwise P-T path of the Lewisian Complex of South Harris, Outer Hebrides, NW Scotland. *Jour. Metamorphic Geol.*, 16, 819-841.
- Baba S.(1998) Ultra-high temperature metamorphism in the Lewisian Complex, South Harris, NW Scotland. In Motoyoshi, Y. and Shiraishi, K.(eds) *Origin and Evolution of Continents*, National Institution of Polar Research, Tokyo, 93-108.
- Bindu R. S., Yoshida M., and Santosh M.(1998) Electron microprobe dating of monazite from Chittikara granulite, South India: Evidence for polymetamorphic events. *Jour. Geosci. Osaka City Univ.*, 41, 77-83.
- Bindu R. S., Suzuki K., Yoshida M. and Santosh M. (1998) The first report of CHIME monazite age from the South Indian granulite terrane. *Current Science*, 74 (10), 852-858.
- 古山勝彦・沢田順弘・板谷徹丸・三宅康幸(1998)近畿北部, 鮮新世照来層群寺田火山岩層の K-Ar 年代. *地球科学*, 52, 38-43.
- Kioka H., Furuyama K., Miyake Y., Sakai J., Nagao K., Ikemoto M., Noiri H. and Oda K. (1998) K-Ar chronology of the Middle Pleistocene lavas at Ontake volcano, central Japan. *Earth Science (Chikyu Kagaku)*, 52, 6, 464-474.
- Okamura S., Martynov Y A., Furuyama K. and Nagao K. (1998) K-Ar ages of the basaltic rocks from Far East Russia: Constrains on the tectono-magmatism associated with the Japan Sea opening. *The Island Arc*, 7, 271-282.
- 奥平敬元(1998)花崗岩質マグマの貫入テクトニクス. *月刊地球*, 20, 120-124.
- Okudaira T., Takeshita T. and Toriumi M.(1998) Discussion: Prism- and basal-parallel subgrain boundaries in quartz: a microstructural geothermobarometer. *Jour. Metamorphic Geol.*, 16, 141-142.
- Rajesh H. M., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Exsolution features in pyroxene phenocrysts from an anorthosite massif in northern Kerala, South India. *Jour. Geosci. Osaka City Univ.*, 41, 85-107.
- Rajesh H. M., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Dextral Pan-African shear along the southwestern edge of the Achankovil shear zone: constraints on Gondwana reconstructions: a discussion and reply. *Jour. Geol.*, 106, 105-113.
- Rao A. T., Satyanarayana P. V. V. and Yoshida M.(1998) Geothermometry of coexisting pyroxenes from Chimakurti anorthosite complex at the contact of Eastern Ghats Granulite and Nellore Granite-Greenstone Belts, Andhra Pradesh, India. In: Rao A. T., Divi S. R. and Yoshida M.(eds.) *Precambrian Crustal Processes in East Coast Granulite-Greenstone Regions of India and Antarctica within East Gondwana*. Gondwana Research Group Mem. 4, 165-184.
- Satish-Kumar M. and Harley S. L (1998) Reaction textures in scapolite-wollastonite-grossular calc-silicate rock from the Kerala-Khondalite Belt, Southern India: Evidence for high-temperature metamorphism and initial cooling. *Lithos*, v. 44, pp. 83-99.
- Satish-Kumar M. and Niimi N.(1998) Fluorine-rich clinohumite from Ambasamudram marbles, Southern India: Mineralogical and preliminary FTIR spectroscopic characterization. *Mineralogical Magazine*, 62, 509-519.
- Satish-Kumar M. and Santosh M. (1998) A petrological and fluid inclusion study of calc-silicate charnockite associations from southern Kerala, India: implications for CO₂ influx. *Geological Magazine*, v. 135, pp. 27-45.
- Satish-Kumar M., Yoshida M., Wada H., Niitsuma N. and Santosh M.(1998) Fluid flow along micro-fractures in calcite marbles from East Antarctica: Evidence from gigantic (21%) oxygen isotopic zonation. *Geology* 26 (3), 251-254.
- Tani Y., Divi R. S., Miyashita Y., Yoshida M., Yoshikura S. and Rao A. T.(1998) Some structural observation in the Eastern Ghats Mobile Belt surrounding Visakapatnam, South India. *Jour. Geosci. Osaka City Univ.*, 41, 109-122.
- Yamamoto T., Tani Y., Miyashita Y., Rao A. T. and Yoshida M.(1998) Migmatites and granulites in the Patapatnam-Tekkali area, Eastern Ghats, India. *Jour. Geosci. Osaka City Univ.*, 41, 123-142.
- 吉田 勝(1998)超大陸の形成・分裂と地球環境: 10~5 億年前の地殻テクトニクス研究の動向. *月刊地球*, 20, 671-681.
- Yoshida M., Glebovitsky V., Hamamoto T., Kovach V., Miyashita Y., Osanai Y., Rajesh H. M., Rao A. T., Santosh M., Satish-kumar M., Shaw R., Tani Y., Wada H., Yamamoto T., Yamasaki T. and Yoshikura S.(1998) Geological survey in southern to eastern Peninsular India, 1996. *Jour. Geosci. Osaka City Univ.*, 41 47-75.
- Yoshino T., Yamamoto H., Okudaira T. and Toriumi M. (1998) Crustal thickening of the lower crust of the Kohistan arc (N. Pakistan) deduced from Al-zoning in clinopyroxene and plagioclase. *Jour. Metamorphic*

- Geol., 16, 729-748.
- <主な学会講演>
- 馬場壮太郎 (1998) スコットランド北西, ルーイシアン岩体の超高温変成作用とスリナム石の形成・分解反応. 日本地質学会第105年学術大会, 長野, 講演要旨, 236.
- Biju-Sekhar S., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Proterozoic anorthosites in the India-Madagascar sector: Implications for East Gondwanaland assembly. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, GRG Misl. Pub. 8, Field Science Pub., Osaka, 68-71.
- Bindu R. S., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Polymetamorphic events from South Indian granulites. National Seminar on Conceptual Models on the Evolution of Granite Greenstone Belt, Granulite Terranes and associated Mineral Deposits., Feb. 4-6 1998, Mysore. Indian Mineralogist, 32, 43.
- Bindu R. S., Yoshida M. and Santosh M.(1998) Multiple metamorphism in Eastern Ghats Granulite Belt: Evidence from Electron microprobe monazite ages. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, GRG Misl. Pub. 8, Field Science Pub., 123-125.
- Binu-Lal S. S., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Shear-zone hosted Proterozoic vein gold mineralization in the Wynad Gold Field, India. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, GRG Misl. Pub. 8, Field Science Pub., 179-181.
- Chandran M., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Pan-African mineralization in the India-Sri Lanka-Madagascar sector of East Gondwanaland. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, GRG Misl. Pub. 8, Field Science Pub., 144-147.
- Craddock J., McGillion M. S. and Yoshida M.(1998) Strain analysis across the Ventana-Ellsworth fold and thrust belt. Gondwana-10, June 28-July 4, Cape Town, Abstracts. 49-51
- Hari P. B., Okudaira T., Yoshida M. and Divi R. S.(1998) High pressure amphibolites from Archean Nellore Schist Belt, south-east India. In The 18th Symposium on Antarctic Geosciences Program and Abstracts, NIPR, Tokyo. pp. 77-78.
- Kovach V. P., Berezhaya N. G., Salnikova E. B., Narayana B. L., Divakara Rao V., Yoshida M. and Kotov A. B. (1998) U-Pb zircon age and Nd isotope systematics of megacrystic charnockites in the Eastern Ghats Granulite Belt, India, and their implication for east Gondwana reconstruction. Gondwana-10, June 28-July 4, Cape Town, J. Afr. Earth Sci., 27, 125-127.
- Moses V. C. B., Ram Mohan V. and Yoshida M.(1998) Mineralogy and metamorphic history of the garnetiferous granulites from the Archaean layered complexes of the Bhavani Shear Zone, in the South Indian Granulite Terrain, India. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, GRG Misl. Pub. 8, Field Science Pub., 246-247.
- Rajesh H. M. and Santosh M.(1998) Fluid controlled granulite formation from Punalur area, Kerala Khondalite Belt: in search of a plausible model. Indian. Mineralogist, 32, 127-128.
- Rajesh H. M. and Santosh M.(1998) Petrogenesis of a compositionally zoned aluminous A-type granite from South India. In Geol. Survey of India (ed.) Abstracts of International seminar on Precambrian crust in eastern and central India, 248-249.
- Rajesh H. M. and Santosh M.(1998) Compositional zoning in an aluminous A-type granite from South India: Major, trace and REE signatures. Mineral. Mag., 62A, 1229-1230.
- Rajesh H. M., Santosh M. and Yoshida M.(1998) Progressive exsolution pyroxene phenocrysts from an anorthositic mass in South India: Implications for petrogenesis. International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India: UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar India. GRG Misl. Pub. 8, 223-224.
- Rajesh H. M., Santosh M., Osanai Y., Ueno T. and Yoshida M.(1998) Pigeonite exsolution in pyroxene phenocrysts from a massive anorthosite in South India: Implications for petrogenesis. National Seminar on Conceptual Models on the Evolution of Granite Greenstone Belt, Granulite terranes and associated Mineral Deposits, Feb. 4-6, 1998, Mysore. Indian Mineralogist, 32, 30-31.
- Rajesh H. M., Santosh M., Osanai Y., Kagami H. and Yoshida M.(1998) Large-scale silicate liquid immiscibility: A possible example from South India. National Seminar on Conceptual Models on the Evolution of Granite Greenstone Belt, Granulite terranes and associated mineral deposits., Feb. 4-6 1998, Mysore. Indian Mineralogist, 32, 31-32.
- Rajneesh K., Okudaira T., Tani Y. and Yoshida M.(1998) Structural analysis across the Archean-Proterozoic boundary in Kinnerasani area, South India. Program and Abstracts 18th Symposium on Antarctic Geosciences, NIPR, Tokyo, 79-80.
- Satish-Kumar M. and Wada H.(1998) Carbon isotope fractionation between calcite and graphite during high temperature metamorphism. 8th V. M. Goldschmidt Conference, Toulouse, Mineralogical Magazine v. 62A, p. 1318-1319.
- Satish-Kumar M., Wada H. and Nagayama M. (1998) Application of carbon isotope thermometry in ultra-high temperature metamorphic rocks. The 18th symposium on Antarctic Geoscience Program and Abstracts, NIPR, Tokyo, p. 88-90.
- Satish-Kumar M., Wada H., Santosh M. and Yoshida M. (1998) Petrology and stable isotopic evidence for peak metamorphic internal fluid buffering and retrograde fluid infiltration in Ambasamudram marbles, southern India. National Seminar on Conceptual Models on the Evolution of Granite Greenstone Belt, Granulite Terranes and associated Mineral Deposits., Feb. 4-6, 1998, Mysore. Indian Mineralogist, 32, 132.
- Tagigami Y., Yoshida M. and Funaki M.(1998) スリランカ, ドレライト貫入岩の ^{40}Ar - ^{39}Ar 年代. 第18回南極地学シンポジウム, プログラム・講演要旨, 84.

- Wada H. and Satish-Kumar M.(1998) Isotopic thermometry on marbles in MacMurdock Sound Area, Antarctica. The 18th symposium on Antarctic Geoscience Program and Abstracts, NIPR, Tokyo, p. 91-92.
- Wada H., Satish-Kumar M. and Suzuki M.(1998) The nature of carbon and oxygen transportation in metamorphic marbles: the role of chemical reaction, dissolution and diffusion. 8th V. M. Goldschmidt Conference, Toulouse, Mineralogical Magazine v. 62A, p. 1619-1620.
- Yoshida M.(1998) Recent studies of Precambrian India-Antarctic sector of East Gondwana by the Gondwana Research Group (Invited talk). National Seminar on 50 years of Progress in Precambrian Geology of India. Nov. 1-2, 1998, Calcutta.
- Yoshida M., Bindu S. R. and Santosh M.(1998) Electron microprobe monazite ages from the Trivandrum Granulite Belt of South India. , Gondwana-10, June 28-July 4, Cape Town. J. Afr. Earth Sci., 27, Sp. Abstracts Iss., Gondwana-10: Events Stratigraphy of Gondwana, v.27, 216-217.
- Yoshida M., Santosh M. and Dissanayake C. B.(1998) Proterozoic Events in East Gondwana: A perspective. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and central India (Invited key note talk): UNESCO-IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998, Bhubaneswar, India, 6-9.
- Yoshida M.(1998) Assembly and dispersion of Pannotia: The "greatest Gondwanaland"? 日本地質学会第42年学術大会, 講演要旨集, 251.
- <雑報>
- Biju-Sekhar S. and Binu-Lal S. S.(1998) Conceptual models on the evolution of granite-greenstone belts, granulite terranes and associated mineral deposits (Mysore, India). Gondwana News Letter Nos.10/11 (Gondwana Research 1), 427-428.
- Rajesh H. M.(1998) マダガスカル地質と鉱物資源」国際シンポジウム, ゴンドワナニューズレター, No. 10, 13-16. (同報告英文版): International Symposium on Geology and Mineral Resources of Madagascar. Gondwana News Letter Nos. 10/11 (Gondwana Research 1), 425-427) .
- Shaju K. M., 吉田 勝, Santosh M.(1998) 南インドの剪断帯-東ゴンドワナ原生代テクトニクス研究の鍵. ゴンドワナニューズレター No. 10, 6-7. (同報告英文版): Shear zones of southern India: Implications for the Proterozoic tectonics of East Gondwana. Gondwana News Letter Nos.10/11 (Gondwana Research 1), 420-421.
- 吉田 勝, Santosh M. and Dissanayake C. B.(1998) 東ゴンドワナの原生代事件-IGCP-368の最近の研究結果- ゴンドワナニューズレター, No. 10, 5-6.(同報告英文版): Recent progress in the study of Proterozoic events in East Gondwana(IGCP-368 during 1997). Gondwana News Letter Nos.10/11 (Gondwana Research 1), 414-415.
- 吉田 勝(1998) 揚子クラトン最古の黄稜背斜の見学と宜昌地質鉱産研究所訪問. ゴンドワナニューズレター, No. 10, 8-10. (同報告英文版): A visit to the core of Yangtze Craton of South China. Gondwana News Letter Nos.10/11 (Gondwana Research 1), 433-434.
- 吉田 勝(1998) マダガスカル地質」国際フィールドワークショップ(地質雑 1997.12月号掲載原稿の転載) ゴンドワナニューズレター, No. 10, 10-13. (同報告英文版): (1997) Proterozoic Geology of Madagascar: International Field Workshop of IGCP-348/368 in 1997. Gondwana Research 1, 299-301.
- 吉田 勝, Santosh M., Dissanayake C. B.(1998) IGCP-368プロジェクト1997年活動報告と近い将来の研究計画. ゴンドワナニューズレター, No. 10, 16-18. (同報告英文版): A report of IGCP-368 activities and its future programmes. Gondwana News Letter Nos.10/11 (Gondwana Research 1), 421-423.
- 吉田 勝(1998) 第10回国際ゴンドワナシンポジウム. 学術の動向 1998年11月号 84-86.
- 吉倉紳一・吉田 勝(1998) Gondwana-10 (第10回国際ゴンドワナ会議) 参加報告. 地質学会 News 1 (12), 7-8.
- 地球史学分野
- <論文>
- Ezaki Y.(1998) Paleozoic Scleractinia: progenitor or extinct experiments? Paleobiology, vol. 24, p. 227-234.
- 柏木健司(1998) 紀伊半島西部, 湯浅地域から産した白亜紀新世放散虫化石. 地球科学, vol. 52, 412-416.
- 柏木健司(1998) 紀伊半島西部, 秩父北帯小浦コンプレックスから産出したジュラ紀古世放散虫化石. 大阪微化石研究会誌, 特別号, no. 11, 123-135.
- 桑原希世子・八尾 昭(1998) ペルム紀新世放散虫化石群集の多様性. 大阪微化石研究会誌, 特別号, no. 11, p. 33-46.
- Kuwahara K., Yao A. and Yamakita S.(1998) Reexamination of Upper Permian radiolarian biostratigraphy. Earth Science (Chikyu Kagaku), vol. 52, no. 5, p. 391-404.
- Maejima W. and Kimoto T.(1998) Facies spectrum and proximity trends in middle to outer shelf storm deposits in the Miocene Hokutan basin, southwestern Japan. Earth Sci. (Chikyu Kagaku), 52, 82-92.
- Mahalik N. K., Maejima W., Mohapatra B. K. and Nayak B. R. (1998) Occurrence of iron silicate oolites in Mahanadi deltaic sediments of Orissa, India. Jour. Sed. Soc. Japan, 48, 61-66.
- Nakajo T.(1998) Tidal influences on distributary-channel sedimentation of the Tertiary delta in the Taishu Group, Tsushima Islands, southwestern Japan. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 41, 37-46.
- 中条武司(1998) 潮汐作用と河川作用の相互作用によって形成された堆積構造-長崎県対馬対州層群下部層のデルタ成堆積物の例-. 堆積学研究, 48, 11-18.
- Nakajo T. and Maejima W.(1998) Morpho-dynamic development and facies organization of Tertiary delta system in the Taishu Group, southwestern Japan. Jour. Geol. Soc. Japan, 104, 749-763.
- Roser B., Ishiga H., Bessho T. and Dozen K.(1998) Major trace element analyses of Cretaceous to Miocene sedimentary rocks from the Shimanto terrane, Kii Peninsula, SW Japan. Geoscience Reports of Shimane University, 17, 57-67.
- 田中里志・田中 淳・山崎博史・成田耕一郎・橋 徹・金沢 淳・前島 渉・志岐常正(1998) 琵琶湖の1994年最大洪水時に出現したバーの形態と内部構造. 地球科学, 52, 262-274.
- 田中 淳・前島 渉(1998) 地層から堆積物重力流の進化を読む-NZ 南島トリアス系と白亜系有田層の例から-. 地球科学, 52, 345-355.
- 梅田真樹(1998) 南部北上帯, 釜石地域の千丈ヶ滝層から産出したデボン紀放散虫化石. 地質学雑誌, 104, p.276-279.
- 梅田真樹(1998) 紀伊半島東部, 鳥羽地域の秩父帯青峰層群からの中・古生代放散虫化石. 地球科学, 52, p. 106-114.

- Umeda M.(1998) Some Late Silurian Characteristic Radiolarians from the Yokokurayama Group in the Kurosegawa Terrane, Southwest Japan. *Earth Science (Chikyu Kagaku)*, no. 52, p. 33-39.
- Umeda M.(1998) Early to Middle Devonian Ceratoliscidae (Radiolaria) from the Yokokurayama Group in the Kurosegawa Terrane, Southwest Japan. *Paleontological Research*, 2, p. 96-107.
- Umeda M.(1998) Upper Silurian to Middle Devonian radiolarian zones of the Yokokurayama and Konomori areas in the Kurosegawa Terrane, Southwest Japan. *The Island Arc*, 7, p. 637-646.
- 梅田真樹(1998)高知県横倉山地域のシルル～デボン系横倉山層群. *地質学雑誌*, 104, p. 365-376.
- 梅田真樹(1998)黒瀬川帯横倉山層群からのデボン紀中世 Ectactiniidae 科放射虫化石. *大阪微化石研究会誌特別号*, 11, p. 11-15.
- 梅田真樹・杉山和弘(1998)三重県鳥羽地域の上部ジュラ系白根崎層中の珪質岩礫から産出した中・古生代放射虫化石. *地質学雑誌*, 104, p. 454-461.
- 山崎静子・道前香緒里・石賀裕明(1998)隠岐島後(島根県), 八尾(富山県), 男鹿半島および太平山(秋田県)における中新統堆積岩の元素組成. *島根大学地球資源環境学研究報告*, 17, 69-96.
- 山崎静子・坪倉直子・道前香緒里・石賀裕明(1998)隠岐島後(島根県)の飯山珪藻土の元素組成(予報). *島根大学地球資源環境学研究報告*, 17, 97-100.
- 大和大峯研究グループ(1998)紀伊山地中央部の中・古生界(その6)ー辻堂地域ー. *地球科学*, vol.52, no.4, p.275-291.
- Yao A.(1998) Radiolarian biostratigraphy and Mesozoic tectonic history of the Japanese Islands. In *Department of Geology, Peking University(ed.): Collected works of international symposium on geological science held at Peking University, Beijing, China*, p. 514-521.
- <主な学会講演>
- 道前香緒里・石賀裕明(1998)日本列島の中・古生代地帯における堆積岩の元素組成からみた地殻進化過程. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 322.
- 江崎洋一(1998)生物礁に関与した古生代六射サンゴ. *日本古生物学会1998年年会講演予稿集*, p. 133.
- 江崎洋一(1998)トリアス紀六射サンゴの起源と造礁作用. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 60.
- 柏木健司(1998)紀伊半島西部, 湯浅地域から産した白亜紀新世放射虫化石. *日本古生物学会1998年年会講演予稿集*, p. 117.
- 柏木健司(1998)三重県西部の秩父帯からのジュラ紀放射虫化石. *日本地質学会関西支部報*, no. 124, p. 5.
- 柏木健司(1998)三重県西部の秩父帯の地帯区分. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 103.
- Kataoka K., Nagahashi Y., Nakajo T. and Yoshikawa S. (1998) Facies change of the Fukuda volcanic ash bed, central Japan, spreading a distance of 300 kilometers from the eruption center. *Abstracts, 15th International Sedimentological Congress, Alicante, Spain*, p. 464-465.
- 片岡香子・中条武司・吉川周作(1998)鮮新・更新世境界付近の福田火山灰層の再堆積過程. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 154.
- 川村寿郎・江崎洋一・沈建偉・楊万容(1998)ペルム紀末期におけるサンゴ礁?ー中国湖南省慈利地域の長興統セクションー. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 60.
- 桑原希世子・八尾 昭・山北 聡(1998)上部ペルム系放射虫層序の再検討. *日本古生物学会1998年年会講演予稿集*, p. 115.
- 桑原希世子・八尾 昭(1998)ペルム紀新世放射虫化石群集の多様性(その3). *日本古生物学会1998年年会講演予稿集*, p. 152.
- 桑原希世子・八尾 昭・江崎洋一・劉建波・報維城(1998)中国雲南地域の中・古生界(その5)ー石炭紀放射虫化石ー. *日本地質学会関西支部報*, no. 123, p. 3-4.
- 桑原希世子・八尾 昭(1998)中国雲南地域の中・古生界(その6)ーデボン紀放射虫化石ー. *日本古生物学会第147回例会講演予稿集*, p. 71.
- 桑原希世子・八尾 昭・山北 聡(1998)上部ペルム系放射虫化石帯の再検討(その2)ー岩相層序や地質構造との関わりー. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 47.
- Maejima W. and Kimoto T.(1998) Storm sedimentation controlled by sand availability: an example from the Tertiary Hokutan basin, southwestern Japan. *Abstracts, 15th International Sedimentological Congress, Alicante, Spain*, p. 524-526.
- 前島 渉・中西健史(1998)中新統唐鐘累層の海浜堆積物にみられるストームとストーム後の海浜回復過程の記録. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 79.
- Nakajo T. and Maejima W.(1998) Morpho-dynamic development and facies organization of Tertiary delta system in the Taishu Group, southwestern Japan. *Abstracts, 15th International Sedimentological Congress, Alicante, Spain*, p. 574-575.
- 中条武司・里口保文・片岡香子(1998)古琵琶湖層群甲賀累層における湖成デルタの発達過程. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 80.
- 織田聖子・江崎洋一(1998)イギリスのオールドビス紀サンゴ化石. *日本古生物学会1998年年会講演予稿集*, p. 134.
- 梅田真樹(1998)南部北上帯, 釜石地域の千丈ヶ滝層から産出したデボン紀放射虫化石. *日本古生物学会1998年年会(小田原)予稿集*, p. 114.
- 梅田真樹(1998)黒瀬川帯のシルル～デボン系の起源. *日本地質学会第105年総会・討論会(東京)要旨*, p. 49.
- 梅田真樹・江崎洋一(1998)熊本県矢部町の黒瀬川帯からのデボン紀放射虫化石. *日本古生物学会第147回例会(札幌)予稿集*, p. 52.
- 梅田真樹(1998)黒瀬川帯のシルル～デボン系祇園山層群の層序の再検討. *日本地質学会第105年学術大会(松本)講演要旨*, p. 41.
- 梅田真樹(1998)高知県, 伊野層の層状チャートからの中生代放射虫化石. *日本地質学会関西支部・西日本支部合同支部例会(愛媛)講演要旨*.
- 八尾 昭・桑原希世子(1998)P/T境界を通じての放射虫群集の変遷(その3). *日本地質学会関西支部報*, no. 123, p. 5-6.
- 八尾 昭・桑原希世子(1998)中国貴州省南部の三疊紀中世放射虫化石群集. *日本古生物学会第147回例会講演予稿集*, p. 23.
- 八尾 昭(1998)中・古生代テクトニクスからみた東アジアにおける西南日本の位置づけ. *地学団体研究会第52回総会(山陰)シンポジウム・ポスター要旨集*, p. 122-125.
- 八尾 昭・大和大峯研究グループ(1998)紀伊山地中央部の秩父帯・四万十帯(その16)ー紀伊山地中央部に黒瀬川帯はないー. *日本地質学会第105年学術大会講演要旨*, p. 104.
- 人類紀自然学分野
- <著書>
- 橋本定樹・吉川周作・山崎博史(1998)古琵琶湖層群の地質図

- (1:200,000). アーバンポタ, 37, 付図.
- 市原 実・吉川周作・古谷正和(1998)大阪府南部 泉南・泉北地域地質図(1/25,000)説明書. 28p., 関西地質調査業協会.
- 関西地盤活用協議会地盤研究委員会編(1998)新関西地盤一神戸および阪神間一. 270p., 関西地盤活用協議会.
- 三田村宗樹(1998)関西地層分布図一大阪平野一解説書. 関西地盤情報活用協議会地盤研究委員会, 31p.
- 三田村宗樹(1998)新関西地盤一神戸及び阪神間一.(第1編2章・4章, 第2編を執筆分担), 関西地盤情報活用協議会地盤研究委員会, 270p.
- 中川康一・佐野正人・三田村宗樹(1998)地形・地質. 阪神・淡路大震災調査報告(共通編-2, 2編 地盤・地質, 第1章), 阪神・淡路大震災調査報告編集委員会, 丸善, 327-373.
- 殿界和夫・三田村宗樹(1998)湧水・地下水中の砒素と地質影響一大阪府北部の湧水・地下水中の砒素とその起源一.「砒素をめぐる環境問題一自然地質・人工地質の有害性と無害性一」(第4章), 湊 秀雄監修, 日本地質学会環境地質研究委員会編, 東海大学出版会, 63-94.
- 吉川周作(1998)地質構成とその地域性.「丘陵地の地盤環境」日本応用地質学会関西支部・関西地質調査業協会編, 24-30, 鹿島出版会.
- 吉川周作(1998)大阪周辺の丘陵地構成層の層序と化石・年代.「丘陵地の地盤環境」日本応用地質学会関西支部・関西地質調査業協会編, 39-43, 鹿島出版会.
- 吉川周作・石井久夫(1998)大阪の自然史, 2. 新生代新第三紀から現在まで.「関西自然史ハイキング」地学団体研究会, 294-302, 創元社.
- 吉川周作・山崎博史(1998)古琵琶湖の変遷と琵琶湖の形成. アーバンポタ, 37, 2-11.
- <論文>
- 本郷美佐緒・石井陽子・鈴木 保(1998)長野県信濃町の中部更新統針ノ木層の花粉化石群集. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告第6号, 9-16.
- 福間 進・楡井 久(1998)東関東自動車道沿いの残土石処分場. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 229-234.
- Kataoka K., Nagahashi Y., Nakajo T. and Yoshikawa S. (1998)Facies changes of the Fukuda volcanic ash bed, central Japan, spreading a distance of 300 kilometers from the eruption center. The 15th International sedimentological congress, Spain, 464-465.
- 川村教一(1998)高松平野の完新世化石とその古環境開析. 香川生物, No. 25, 31-42.
- 川村教一(1998)高松市郷東町から産出した完新世化石とその古環境開析. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, No. 34, 71-85.
- 川村教一(1998)高松市浜ノ町の第四紀堆積物から産した化石(II). 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, No. 34, 86-95.
- 川村教一(1998)香川県高松平野の第四紀後期テフラ. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, No.34, 97-106.
- 三田村宗樹(1998)ため池における地震関連現象に関わる一考察. 第四紀, No. 30, 73-80.
- 三田村宗樹(1998)生活の基盤となる地盤をみつめて一大阪の地盤と災害一. M&E, Vol. 25, No. 12, 工業調査会, 188-193.
- 三田村宗樹・益田晴恵(1998)大阪周辺のボーリングコアの砒素濃度. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 85-88.
- 三田村宗樹・吉川周作・石井陽子・貝戸俊一・長橋良隆(1998)大阪平野 OD ボーリングコアの岩相. 大阪市立自然史博物館研究報告, 52, 1-20.
- 森川美幸・吉川周作・後藤敏一(1998)大阪府泉南市双子池堆積物の珪藻群集. 第四紀, 30, 47-56.
- 佐藤香織・熊井久雄(1998)河川流量から推定される地下水涵養量. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 361-364.
- Setiadi D. J., Hutabarat J. and Haryanto I.(1997) Depositional environment of the young terrace deposits on Cimandiri River, Regency of Sukabumi, West Java. Journal of Padjadjaran University, V. 15, No. 1, 45-55.
- 達 裕代・熊井久雄(1998)地下水に関する民事裁判の動向. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 289-294.
- 槻木玲美・後藤敏一・吉川周作(1998)狭山池堆積物に記録されている1950年以降の水環境変化. 第四紀, 30, 37-46.
- 内山美恵子(1998)ため池立地に関する地質学的要因一大阪府下のため池を例として一. 第四紀, 30, 1-9.
- 内山美恵子・山本 司・佐藤光男(1998)近接した2本の自噴井を用いた加圧層の性格解明一滋賀県琵琶湖畔を例にして一. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 349-354.
- 内山 高(1998)南八ヶ岳山麓の上/中部更新統風成火山灰層序とガラス質火山灰の広域対比. 地球科学, 52, 26-37.
- 内山 高(1998)狭山池堆積物の古地磁気学的研究. 第四紀, 30, 29-35.
- 内山 高・吉川周作・山崎秀夫・槻木玲美(1998)大阪狭山市狭山池の堆積物とその年代. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 301-306.
- 山崎秀夫・合田四郎・三谷明恒・内山 高・吉川周作(1998)放射性核種から見た大阪狭山市狭山池堆積物の特性. 第四紀, 30, 29-35.
- 吉川周作(1998)大阪平野地下の第四系層序. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 105-110.
- 吉川周作(1998)ため池堆積物一大阪狭山市狭山池堆積物一. 第四紀, 30, 11-20.
- 吉川周作・景守紀子・世良耕一郎・二ツ川章二(1998)PIXE法による火山ガラスの化学分析. NMCC 共同利用研究成果報文集, 5, 195-199.
- 吉川周作・三田村宗樹・中川康一・長橋良隆・岩崎好規・越後智雄・辻江賢治・北田奈緒子(1998)大阪市津守・大手前・浜ボーリングコアの岩相・火山灰層序. 地質学雑誌, 104, 462-476.
- <報告書>
- 藤田正勝・河村善也・桂川昌巳・神田亜希子(1998)アバクチ洞穴遺跡 3)動物遺存体 (2)土壌サンプル資料. アバクチ洞穴・風穴洞穴遺跡発掘調査略報一1997年の発掘一, p. 7. アバクチ洞穴・風穴洞穴遺跡発掘調査団.
- 藤田正勝・河村善也・戸田晃久(1998)風穴洞穴遺跡 2)風穴洞穴遺跡の脊椎動物化石. アバクチ洞穴・風穴洞穴遺跡発掘調査略報一1997年の発掘一, p. 15. アバクチ洞穴・風穴洞穴遺跡発掘調査団.
- 稲田孝司・河村善也・藤田正勝(1998)岡山県新見市足見 NT 洞窟の発掘調査. 稲田孝司編:旧石器時代動物化石共伴遺跡の探索とタフォミー研究. 平成7年度～平成9年度科学研究費補助金[基盤研究(B)(2)]研究結果報告書, pp. 7-11.
- 稲田孝司・河村善也・藤田正勝(1998)岡山県新見市コウモリ穴洞窟の発掘調査. 稲田孝司編:旧石器時代動物化石共伴遺跡の探索とタフォミー研究. 平成7年度～平成9年度科学研究費補助金[基盤研究(B)(2)]研究結果報告書, pp. 22-23.
- 河村善也・藤田正勝・村瀬直光(1998)岡山県新見市足見のNT 洞産第四紀哺乳動物化石. 稲田孝司編:旧石器時代動物化石共伴遺跡の探索とタフォミー研究. 平成7年度～平

- 成 9 年度科学研究費補助金[基盤研究(B)(2)]研究結果報告書, pp. 12-21.
- 益田晴恵・三田村宗樹(1998)大阪府北摂地域の砒素含有地下水の原因物質の究明と形成機構. 平成 9 年度日本生命財団研究奨励助成報告書, 126p.
- 三田村宗樹(1998)無植生斜面における屈折法弾性波探査によるP波速度の計測—生石・足尾地域の事例—. 弾性波探査による無植生斜面の風化帯の構造解析(平成 7 年度～平成 9 年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書), 31-61.
- 小倉博之・吉川周作(1998)火山灰分析. 大阪市文化財協会, 山之内遺跡発掘調査報告, 111-115.
- 里口保文・吉川周作(1998)野洲川河床の古琵琶湖層群, 火山灰とその年代. 「甲西町朝国の野洲川河床足跡化石調査報告」野洲川朝国河床足跡化石調査団, 19-23, 甲西町教育委員会.
- <主な学会講演>
- 藤田正勝・河村善也・金昌柱(1998)第四紀の東アジアにおけるイノシシ類の分布と変遷(予報). 神奈川県立生命の星・地球博物館. 日本古生物学会 1998 年年会.
- 福間 進・楡井 久(1998)東関東自動車道沿いの残土石処分場. 第 8 回環境地質学シンポジウム論文集, 229-234.
- 井上 淳・吉川周作(1998)神戸市学園都市地域に分布する高塚山層と大阪層群. 日本第四紀学会講演要旨集, 28
- 石井陽子・野尻湖地質グループ(1998)長野県信濃町貫ノ木周辺の中～上部更新統. 日本第四紀学会講演要旨集 28, 86-87
- 片岡香子(1998)福田火山灰層の層相変化と堆積過程. 地学団体研究会第 52 回総会シンポジウム・ポスター要旨集, 58-59.
- Kataoka K., Nagahashi Y. Nakajo, T. and Yoshikawa S. (1998) Facies changes of the Fukuda volcanic ash bed, central Japan, spreading a distance of 300 kilometers from the eruption center. The 15th International sedimentological congress, Spain. 464-465.
- 片岡香子・中条武司・吉川周作(1998)鮮新・更新世境界付近, 福田火山灰層の再堆積過程. 日本地質学会第 105 年学術大会講演予稿集, 154.
- 小西省吾・高橋啓一(1998)アケボノゾウの体幹・体肢骨の特徴. 日本地質学会第 105 年学術大会講演予稿集, 277.
- 川村教一(1998)香川県高松平野の第四紀後期層—特にテフラ層序. 日本地質学会第 105 年学術大会講演要旨. 319.
- 松下まり子・兵頭政幸・百原新・佐藤裕司・田中眞吾・小倉博之(1998)室戸半島大野台海成段丘堆積物の植物化石群. 第 13 回日本植生史学会大会(東北大学), 仙台.
- 宮原伐折羅・増田富士雄・入月俊明・藤原 治・吉川周作(1998)大阪西成区の完新統コアから求めた内湾堆積物の堆積速度と古水深及び堆積相の関係. 日本地質学会第 105 年学術大会.
- Mitamura M.(1998)Distribution of harmful strata containing arsenic in Japan. International Symposium for application of Mineral Resources for Preservation to the Environments (1998), No.111 Committee, Development of New Utilization of Minerals, Japan Society for the Promotion of Science, 21-22.
- 三田村宗樹・益田晴恵(1998)大阪周辺のボーリングコアの砒素濃度. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 85-88.
- 三田村宗樹・吉川周作(1998)大阪平野における海成粘土層の基底深度の統計学的検討. 日本地質学会第 105 年学術大会講演要旨, 360.
- 中川良平・河村善也・藤田正勝(1998)福岡県平尾台不動洞から産出した第四紀の哺乳類化石. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 日本古生物学会 1998 年年会.
- 佐藤香織・熊井久雄(1998)河川流量から推定される地下水涵養量. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 361-364.
- 里口保文・長橋良隆・黒川勝巳・吉川周作(1998)鮮新—更新統のテフラ層序. 地学団体研究会第 51 回総会シンポジウム資料集, 38-41.
- 銭 祥富・吉川周作(1998)大阪南部に分布する段丘層の層序と編年. 日本第四紀学会講演要旨集, 28.
- 遠 裕代・熊井久雄(1998)地下水に関する民事裁判の動向. Proc. of the 8th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 289-294.
- 田中眞吾・小倉博之・兵頭政幸・松下まり子・佐藤裕司・柏谷健二(1998)兵庫県御津町 90m ボーリングコアの古環境解析. 日本第四紀学会講演要旨集, 28, 156-157.
- 内山美恵子・金川美幸・武智国加(1998)長野県千曲川上流域に分布する河岸段丘. 日本地質学会第 105 年学術大会(松本)講演要旨, 11.
- 内山美恵子・山本 司・佐藤光男(1998)近接した 2 本の自噴井を用いた加圧層の性格解明—滋賀県琵琶湖畔を例にして—. 第 8 回環境地質学シンポジウム論文集, 349-354.
- 内山 高(1998)南ハヶ岳火山層序の再検討—古地磁気層序および火山灰層序による研究. 日本地質学会第 105 年学術大会(松本)講演要旨, 160.
- 内山 高・吉川周作・山崎秀夫・榎木玲美(1998)大阪狭山市狭山池の堆積物とその年代. 第 8 回環境地質学シンポジウム論文集, 301-306.
- 山本裕雄(1998)広島県庄原市, 西城川河床における海成中新統の岩相と古環境. 日本地質学会第 105 年学術大会(松本)講演要旨, 38.
- 横田喜一郎・吉川周作・森川美幸・山本政儀・山崎秀夫・合田四郎・竺文彦・楡尾享一(1998)琵琶湖底泥中の水銀その他の化学成分の蓄積量について. 生物利用新技術研究シンポジウム.
- 吉川周作(1998)大阪平野地下の第四系層序. 第 8 回環境地質学シンポジウム論文集, 105-110.
- 吉村有加(1998)解剖学学会(大阪), ポスターセッション.
- 都市地盤構造学分野
- <著書>
- 中川康一(1998)大阪の地盤の文化財, 「都市と文化財, アテネと大阪(大阪市立大学国際シンポジウム)」, 関 隆志編, 東信堂, 373p.
- 中川康一(1998):丘陵地地盤の地質環境特性, 「丘陵地の地盤環境」, 日本応用地質学会・関西地質調査業協会, 鹿島出版会, 119-152.
- 中川康一・佐野正人・三田村宗樹(1998)第 1 章 地形・地質, 「阪神・淡路大震災調査報告, 共通編-2」, 地盤工学会, 丸善, 327-372.
- 関西情報活用協議会(1998)「新関西地盤—神戸および阪神間—」, 関西情報活用協議会, 270p.
- 三田村宗樹・中川康一・竹村恵二監(1998)「関西地層分布図—大阪平野—」, 関西情報活用協議会, 図版 6 葉+解説書(31p.)
- <論文>
- 井上直人・中川康一・領木邦浩(1998)大阪平野の重力異常と基盤構造, 物理探査, 第 51 巻, 第 1 号, 物理探査学会, 1-16.
- 太田 裕・小山真紀・中川康一(1998)アンケート震度算定法の改訂—高震度領域—, 自然科学, JSNDS 16-14, 307-323
- 中川康一(1998)関西支部の活動の現状と課題, 応用地質, 第 39 巻, 第 1 号, 日本応用地質学会, 113-120.
- 吉川周作・三田村宗樹・中川康一・長橋良隆・岩崎好規・越後智雄・辻江賢治・北田奈緒子(1998)大阪市津守・大手前・浜ボーリングコアの岩相・火山灰層序, 地学雑誌, 第 104 巻,

- 第7号, 462-476.
- 中川康一・Pathak D.・岩崎好規(1998)浅部地下の動的特性(第1編3. 地域の土質), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 95-105
- 中川康一(1998)重力探査(第1編4. 深部構造と物性), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 131-133.
- 横田 裕・中川康一・竹村恵二・三田村宗樹(1998)深部地下構造のまとめ(第1編4. 深部構造と物性), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 133-139.
- 中川康一・横田 裕(1998)深部地下の動的物理特性(第1編4. 深部構造と物性), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 140-145.
- 中川康一(1998)震災後の深層ボーリング調査(第2編1. 概説), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 207-208.
- 中川康一(1998)深層ボーリング間の比較(第2編1. 概説), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 209-211.
- 衣笠善博・中川康一(1998)検層(第2編3. 石屋川, 長田ボーリング調査), 新関西地盤-神戸および阪神間-, 関西地盤活用情報協議会, 242-246.
- Toda S., Katoh S., Kobayashi F., Kagawa T., Yokota H., Nakagawa K., Takemura K. and Okada A.(1998) Seismic reflection survey across the central part of the Arima-Takatsuki Tectonic Line, Kinki District, Central Japan, *Nature and Human Activities*, 3, 9-21.
- 中川康一(1998)深部地盤構造の調査とその重要性, 都市の地震防災と深部地盤構造に関するシンポジウム, 日本応用地質学会・関西地盤情報活用協議会.
- <主な学会講演>
- Nakagawa K. and Morii T.(1998) Portable Measurement System for Soil Resistivity and Application to Quaternary Clayey Sediment, *Nondestructive and Automated Testing for Soil and Rock Properties*, ASTM STP 1350, W. A. Marr and C. E. Fairhurst, Eds., American Society for Testing and Materials, San Diego.
- 中川康一・田村岳史(1998)泥質堆積物の電気比抵抗特性と堆積環境, 地球惑星科学関連学会 1998 合同大会予稿集, p. 198.
- 中川康一・北林昌樹(1998)地盤の非弾性効果と地震動特性, 地球惑星科学関連学会 1998 合同大会予稿集, p. 381.
- 中川康一・根本泰雄・井上直人・千田智・岡本健太郎・三田村宗樹・升本眞二・柴山元彦・領木邦浩・辻江賢治(1998)平成7年兵庫県南部地震の広域アンケート震度調査(1)-調査結果の概要とマイクロゾーニング-, 地球惑星科学関連学会 1998 合同大会予稿集, p. 384.
- 井上直人・根本泰雄・千田智・岡本健太郎・三田村宗樹・升本眞二・柴山元彦・領木邦浩・辻江賢治・中川康一(1998)平成7年兵庫県南部地震の広域アンケート震度調査(2)-アンケート震度と計測震度との関係-, 地球惑星科学関連学会 1998 合同大会予稿集, p. 386.
- 井上直人・宇田英雄・中川康一・横田 祐(1998)福井地震断層における反射法地震探査と重力探査概要, 日本地震学会秋季大会, 日本地震学会講演予稿集(福井), P89.
- 根本泰雄・川村大作・佐藤慶治・中川康一(1998)教育機関での地学的研究活動状況の推移-地震に関わる単元を例として-, 日本地震学会秋季大会, 日本地震学会講演予稿集(福井), P78.
- 中川康一・Pathak Dinesh・岩崎好規(1998)ボーリングデータベースによる神戸-大阪地域のS波速度地盤構造, 日本地震学会秋季大会, 日本地震学会講演予稿集, P93.
- 北田奈緒子・斎藤礼子・井上直人・三田村宗樹・中川康一(1998)上町断層北部の表層の構造, 日本地震学会秋季大会, 日本地震学会講演予稿集, P51.
- 間野道子・中川康一(1998)地震計システムの高周波特性, 地質環境の変遷と地震動予測に関する研究会, 京都大学研究集会 10k-2, 「都市圏における地質環境の変遷と地震動災害」, 20-23.
- 中川康一(1998)震度分布と地下構造特性, 地質環境の変遷と地震動予測に関する研究会, 京都大学研究集会 10k-2, 「都市圏における地質環境の変遷と地震動災害」, 162-177.
- 井上直人・Pathak Dinesh・宇田英雄・中川康一・古野邦雄・香村一夫・楠田隆・横田裕(1998)延命寺断層付近の反射法地震探査, 地質環境の変遷と地震動予測に関する研究会, 京都大学研究集会 10k-2, 「都市圏における地質環境の変遷と地震動災害」, 120-127.
- 中川康一(1998)動的特性, 「阪神地域の地盤, 地震, 液状化」講習会, 関西地盤情報活用協議会.
- 中川康一(1998)兵庫県南部地震の震度分布, パネルディスカッション-阪神淡路大震災と地盤-, 関西地盤情報活用協議会, 5-10.
- 中川康一(1998)直下型地震から都市を守る, 福井県高等学校教育研究大会(招待講演).
- 中川康一(1998)深部地盤構造の調査とその重要性, 「都市の地震防災と深部地盤構造」に関するシンポジウム, 日本応用地質学会, 24-39(招待講演).
- 川村大作・川島なぎさ・安原淑子・菅野耕三(1998)大阪府で掘削されたボーリング”西成区津守・中央区大手前・鶴見区浜”の生層序学的研究, コア精密対比研究会(大阪).
- <雑報>
- 中川康一(1998)地下構造特性に起因した地震動の被害集中と衝撃的鉛直動の生成, 地盤工学会関西支部40周年記念誌, 80p.
- 地球情報学分野
- <論文>
- 升本眞二・Raghavan V.・塩野清治(1998)インターネットを利用したGIS教育. 日本情報地質学会シンポジウム'98 講演論文集, pp. 21-24.
- 升本眞二・足立佳世・Raghavan V.・塩野清治(1998)GRASS GIS 入門(その1). 情報地質, vol. 9, no. 4, p. 227-249.
- 能美洋介・升本眞二・塩野清治・弘原海清(1998)フィッシュトラック年代測定における結晶形記載法と統計解析手法を用いた異質ジルコン粒子の排除. 情報地質, vol. 9, no.2, pp. 65-72.
- Raghavan V., Masumoto S., Sibayama M. and Shiono K. (1998) Online GIS - An information technology framework for disaster reduction. Proc. Intl. Symp. Application of Remote Sensing and Geographic Information System for Disaster Reduction, Tsukuba, Japan, pp. 65-73.
- Raghavan V., Masumoto S., Sibayama M. and Shiono K. (1998) Development of an Online GIS for a network environment: Possible applications in hazard risk management and environmental monitoring. Proc. Intl. Symp. Information Technology Tools for Natural Disaster Risk Management, Bangkok, Thailand.
- 塩野清治・升本眞二・坂本正徳(1998)地層の3次元分布の特性と地質図作成アルゴリズム-地質構造の論理モデル-. 情報地質, vol. 9, no. 3, pp. 121-134.
- <主な学会講演>
- 升本眞二・青山隆行・足立佳世・Raghavan V.・塩野清治(1998)地質図幅を用いた3次元地質モデルの構築-新潟県

小千谷地域の例－. 第 9 回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 13-14.

升本眞二・坂本正徳・助川裕一・Raghavan V.・塩野清治 (1998)VRMLを用いた地質情報可視化の例. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 57-58.

升本眞二・青山隆行・足立佳世・Raghavan V.・塩野清治 (1998)地質図幅をデータとした 3 次元地質モデリング. 日本地質学会第 105 年学術大会講演要旨, 松本, p. 362.

能美洋介・塩野清治・升本眞二・Raghavan V.(1998)等高線間データを用いたDEMの作成(その1)－原理と手法－. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 11-12.

能美洋介・塩野清治・升本眞二・Raghavan V.(1998)等高線間データを用いたDEMの作成(その2)－DEMの作成過程－. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 61-62.

Raghavan V., Masumoto S., Sibayama M. and Shiono K. (1998) Online GIS for ground truth verification of satellite imagery interpretations. 災害軽減のためのリモートセンシングおよび地理情報システムの応用予稿集, 筑波, pp. 15-17.

Raghavan V.・升本眞二・塩野清治(1998)野外調査に利用可能なオンライン空間情報システム. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 7-8.

Raghavan V.・升本眞二・塩野清治(1998)インターネットを用いたオンライン空間情報システムの応用例. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 59-60.

Raghavan V., Masumoto S. and Shiono K.(1998) Integrated spatial information system for decision support in resource exploration and analysis. 5th International Symp. for Mineral Exploration, Brisbane, Australia. pp. 25.

Raghavan V.・升本眞二・塩野清治(1998)インターネット技術を利用した空間情報システム－地質学的な応用と可能性－. 日本地質学会第 105 年学術大会講演要旨, 松本, p. 364.

坂本正徳・升本眞二・塩野清治(1998)VRMLを用いた地質図表現の試み. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp.15-16.

坂本正徳・升本眞二・塩野清治・Raghavan V.(1998) 3次元地質モデルのVRML表示. 日本地質学会第 105 年学術大会講演要旨, 松本, p. 361.

塩野清治(1998)地層累重の法則に関連する公理系とその拡張－基本法則が保存される地層区分－. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 1-2.

塩野清治(1998)地層区分の論理構造－束とブール代数－. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 3-4.

弘原海清・米澤剛・Raghavan V.・能美洋介(1998)インターネットを利用した地震危険予報システム. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 65-66.

山口久美子・塩野清治(1998)地層の形成期間・種の生存期間にもとづく生層序学上の諸概念の定式化－地層と化石の関係－. 第9回日本情報地質学会講演会, 岡山, pp. 21-22.

3-2. 1998 年度海外研究

< 教員 >

篠田圭司: 中国 1998 年 8 月 15 日～9 月 31 日中国科学院鉱物資源探査研究センター・顕微赤外分光法指導.
インド 1999 年 1 月 21 日～2 月 10 日アジア・日本研究フェローシップ『東 Gondwana 超大陸の原生代変動-インド半島の先カンブリア代変成帯の研究』.

吉田 勝: インド 1998 年 10 月 20 日～11 月 4 日アジア・

日本研究フェローシップ『東 Gondwana 超大陸の原生代変動-インド半島の先カンブリア代変成帯の研究』.

南アフリカ・ジンバブウェ・モザビーク 1998 年 6 月 27 日～7 月 20 日『第 10 回国際 Gondwana シンポジウム及び IGCP-368 国際フィールドワークショップ参加』(共同主催).
インド 1998 年 10 月 20 日～11 月 7 日『東・中部インドの先カンブリア代地質に関する国際セミナーとフィールドワークショップの共同主宰及び地質調査』.

インド 1999 年 1 月 3 日～1 月 18 日『中～西部インドの先カンブリア代地質野外研究と研究討議』.

古山勝彦: インド 1999 年 1 月 22 日～2 月 5 日アジア・日本研究フェローシップ『東 Gondwana 超大陸の原生代変動-インド半島の先カンブリア代変成帯の研究』.

奥平敬元: インド 1998 年 9 月 20 日～10 月 4 日アジア・日本研究フェローシップ『東 Gondwana 超大陸の原生代変動-インド半島の先カンブリア代変成帯の研究』.

八尾 昭・江崎洋一: 中国 1998 年 12 月 17 日～12 月 31 日『中国貴州省のペルム系からトリアス系に関する共同研究』.

前島 渉: スペイン 1998 年 4 月 12 日～4 月 18 日『第 15 回国際堆積学会議』出席・発表.

インド 1999 年 2 月 15 日～3 月 2 日『古生代 Gondwana 堆積盆の堆積環境変遷に関する共同研究』.

熊井久雄: インドネシア 1998 年 7 月 10 日～7 月 29 日『第四紀火山活動と盆地の形成』学術振興会特定国派遣.
ロシア 1998 年 9 月 15 日～9 月 24 日『哺乳動物化石含第四系の共同研究打合せ』私事渡航.

中国 1998 年 12 月 23 日～1999 年 1 月 5 日『東アジアの第四系層序-とくに大陸から太平洋までの対比とそれによって示される古環境の変遷-』姉妹都市研究者交流.

三田村宗樹: アメリカ 12 月 5 日～12 月 13 日, 『1992 年ラングース地震に関する調査』(科研共同研究者として).

< 大学院生・研究生 >

Rajesh H. M.: インド 1998 年 10 月 17 日～11 月 7 日 UNESCO-IUGS-IGCP 368 野外調査と国際セミナー『インド中・東部の先カンブリア代地殻』出席.

Biju S. S.: インド 1998 年 12 月 21 日～1999 年 1 月 14 日 インド北西部の地質野外調査と研究討議.

馬場壮太郎: インド 1999 年 1 月 3 日～1 月 16 日 インド北西部の地質野外調査と研究討議.

Rajneesh Kumar: インド 1998 年 9 月 20 日～10 月 4 日 インド南東部の地質野外調査.

B. Hari Pasad: インド 1998 年 9 月 20 日～10 月 4 日 インド南東部の地質野外調査.

中条武司: スペイン 1998 年 4 月 12 日～5 月 1 日『第 15 回国際堆積学会議』出席・発表および巡検参加.

林 美明子: インド 1999 年 2 月 15 日～3 月 2 日『タルチール・Gondwana 堆積盆の形成過程に関する研究』.

片岡香子: スペイン 1998 年 4 月 13 日～4 月 20 日『第 15 回国際堆積学会議』出席・発表および巡検参加.

3-3. 1998 年度研究補助金等(代表者)

篠田圭司: 文部省科学研究費補助金(奨励研究(A))『近赤外顕微分光法を用いた高圧下での鉱物中の“水”の研究』.

吉田 勝: 文部省科学研究費補助金(国際学術研究)『インド

中央構造帯のテクトニクス-東ゴンドワナの原生代事件の研究(IGCP-368)-』。

文部省科学研究費補助金(基盤研究(B))『インド東ガートグラニュライト帯の変成作用と造構史の研究』。

文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)企画調査)国際研究集会『東ゴンドワナにおける原生代事件』の企画調査。

ユネスコ・国際地質学連合共催事業:国際地質対比計画(IGCP)No.368『東ゴンドワナの原生代事件』。

奥平敬元:大阪市立大学 1998 年度アジア・日本研究フェローシップ。

八尾 昭:文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))『放散虫からみたジュラ紀北西古太平洋の変遷』。

江崎洋一:文部省科学研究費補助金(奨励研究(A))『パンサラッサ-テチス会合部における古生代後期-中生代初期の地球環境』。

塩野清治:文部省科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))『地質学原理の定式化を基礎とした人工知能型地質構造推定システムの開発』。

宇田英雄:文部省科学研究費補助金(奨励研究(B))『市民への提供を目的とした大阪平野地下構造 3 次元モデルの立体的可視化』。

桑原希世子:文部省科学研究費補助金(特別研究員奨励費)『古生代-中生代境界での環境変動:放散虫化石の群集解析と形態計測からのアプローチ』。

梅田真樹:文部省科学研究費補助金(特別研究員奨励費)『黒瀬川帯の起源とその地質構造発達史』。

道前香織里:文部省科学研究費補助金(特別研究員奨励費)『泥質岩の元素組成からみた日本の中・古生代地帯の地殻進化に関する研究』。

3-4. 1998 年度受賞

梅田真樹:日本地質学会研究奨励賞(日本地質学会 1999 年総会)。

4. 地球学教室関係行事・出版物等

4-1. 1998 年度各種行事

<地球学談話会>

昨年に引き続き、出来るだけ案内通知を電子メールへ移行する方針で望みました。今後も案内通知の電子メール化を促進したいと思いますので、電子メールが使える方で、現在は電子メールでの案内送付が無い方は、今年度の談話会世話人会まとめ役まで連絡を入れて下さればと思います。また、郵便での案内も基本的にはハガキでという方針を続けております。ご意見があれば今年度の談話会世話人会まとめ役までご一報下さい。

昨年度までは、研究室単位で談話会世話人を年度毎の当番制としていましたが、世話人が所属する研究室の研究分野に近い話題に偏る傾向が指摘されてきていました。そこで今年度の談話会は各研究室で担当者を持ち回りにすることを試みます。年度を通してみれば、各人が興味をお持ちの分野の話題である会が 1 度は巡ってくると思います。担当者(世話人会メンバー)は、地球物質進化学講座:篠田

(物質 I)・奥平(物質 II)・江崎(地球史)、環境地球学講座:三田村(人類紀)・根本(都市地盤,世話人会まとめ役)・升本(地球情報)です。

今年度も引き続き学外の方々のお話提供・御来聴を歓迎します。興味のある方はどなたでも参加出来ます。話題提供、或いは開催案内通知を新たに希望される方は、世話人会まとめ役まで連絡をお願いします。また、何名かの方のハガキや電子メールが転居先不明で返送されて来ております。住所や電子メールアドレスに変更があった場合は、連絡をお願いします。(1998 年度世話人:根本・中川)

第 58 回 日時:1998 年 6 月 26 日(金)午後 5 時~7 時

横田 裕((株)阪神コンサルタンツ技術開発部):大阪湾周辺の深部探査について。

根本泰雄:1995 年兵庫県南部地震の本震・余震分布と本震震源過程。

第 59 回 日時:1998 年 10 月 23 日(金)午後 5 時~7 時

林 愛明(神戸大学理学部地球惑星科学科):オールドス台地周縁活断層系およびタンルー断層のネオテクトニクス発達史。

八尾 昭:日本列島の中・古生代テクトニクス-東アジアの地帯配列との関連-。

第 60 回 日時:1998 年 11 月 27 日(金)午後 5 時~7 時

根岸 弘明(京都大学防災研究所):地震トモグラフィーによる西南日本の地殻内不均質イメージング。

奥平 敬元:島弧地殻の変形は何によって規制されるのか?

第 61 回 日時:1999 年 1 月 19 日(火)午後 5 時~7 時

楡井 久(茨城大学広域水圏環境センター):地層命名規約確立のための人工地層学と自然地層学の相違。

吉川 周作:大阪平野地下から第四紀環境変遷を見る。

第 62 回 日時:1999 年 3 月 5 日(金)午後 5 時~7 時

後藤忠徳(愛知教育大学):活断層深部の電気伝導度構造について。

城森 明((株)ジェイ.シー.アール):電磁波による比抵抗基盤構造の探査。

<地球学院学生会主催 院生巡検>

院学生会主催の院生巡検は、例年、7 月の下旬に行なわれている。毎年、新旧さまざまな地層を観察しようという概念から、幅広い分野の案内者を招いて行なっている。1998 年度も、大学外の方々を含め 20 名あまりという参加を頂いた。

日程:1998 年 7 月 22 日(水)~25 日(土)

案内者:林 美明子氏(大阪市立大)・清水 徹氏(金沢大)・竹村静夫氏(兵庫教育大,市大 OB)

参加者:大阪市大 12 名,金沢大 6 名,大阪市大 OB 2 名

行程および内容(カッコ内は巡検案内者):

22 日(水) 石川県金沢市にて更新統大桑層の観察(清水氏)

23 日(木) 富山県小矢部地域にて更新統大桑層の観察(清水氏)

24 日(金) 福井県越前海岸にて中新統国見累層の観察(林氏)

25 日(土) 福井県大飯にてペルム系舞鶴帯・超丹波帯の観察(竹村氏)

いずれも晴天に恵まれ、調査には格好の日和であった。石川から福井へと、北陸の多様な地層を見て歩き、内容も多岐にわたり、非常に充実したものであった。参加者は、案内者の説明に質問を投げ掛け、活発な意見が交わされ、学ぶことも数多くあった。また、他大学の方々とも交流を深めることができ、有意義な巡検であった。(林)

4-2. 出版物

地球学教室では、1954 年以來、英文紀要 Journal of Geosciences, Osaka City University を年 1 巻のペースで編集・発行しています。1991 年(Vol. 34)からは国外の研究者も含めたレフェリー制、1997 年には A4 版 2 段組を導入しています。表紙やレイアウトなど、今後より良いものを目指して順次改良を加えていく予定です。皆様のご意見をお待ちしています。Vol. 42 の目次は以下の通りです。

Article 1. Jin Chan-zhu, Kawamura Yoshinari and Taruno Hiroyuki

Pliocene and Early Pleistocene Insectivore and Rodent Faunas from Dajushan, Qipanshan and Haimao in North China and the Reconstruction of the Faunal Succession from the Late Miocene to Middle Pleistocene. 1-19.

Article 2. Shibasaki Naoki

Study of Methodology of Practical Parameter Estimation for Gondwana Modeling Based on Hydrogeological Classification. 21-43.

Article 3. Elfatih Abdalla Farah

Groundwater Quality and Hydrogeologic Conditions in the khartoum Area, Sudan. 45-53.

Article 4. Yamamoto Yasuo and Sato Tokiyuki

Miocene Calcareous Nannofossiles of the Bihoku Group in the Shobara Area, Hiroshima Prefecture, Southwest Japan. 55-67.

Article 5. Yao Akira and Kuwahara Kiyoko

Middle-Late Permian Radiolarians from the Guangyuan-Shangsi Area, Sichuan Province, China. 69-83.

Article 6. Kuwahara Kiyoko

Phylogenetic Lineage of Late Permian *Albaillella* (*Abaillellaria*, Radiolaria). 85-101.

Article 7. Maejima Wataru, Nakajo Takeshi, Rajeshree Das, K.L.Pandya and Hayashi Miako

Turbidite Sedimentation in the Late Paleozoic Talchir Gondwana Basin, Orissa, India. 103-114.

Article 8. Baba Sotaro

Evolution of the Lewisian Complex in South Harris, Northwest Scotland, and its Relation to the North Atlantic Craton in the Palaeoproterozoic (2.0Ga). 115-125.

Article 9. M. Satish-Kumar

An Overview of Petrology of Calc-silicate Granulites from the Trivandrum Block Southern India. 127-159.

Article 10. Yamamoto Tetuya

Migmatite from the Tekkali Area, Eastern Ghats, India: Chemical Investigation and P-T Estimation.

161-178.

Article 11. Yoshida Masaru, Ando Tsutomu, R. S. Divi, G. Ghatak, Hamamoto Takuji, B. Hari Prasad, W. Mathavan, Miyasita Yukari, Miyazaki Takashi, B. V. C Moses, Okudaira Tamkamoto, Osanai Yasuhito, W. K. Preme, Rajneesh-Kumar, A. T. Rao, Shirahata Hitoshi, Suzuki Teruo, Takano Naoshi, Tani Yasutaka, Tsuchiya Takamura, Wada Hideki and Yoshikura Shin-ichi

Field studies of Proterozoic Terrains in Peninsular India and Sri-Lanka during 1997-1998. 179-203.

Article 12. Miyazaki Takashi, H. M. Rajesh, V. Ram Mohan, K. C. Rasekaran, A. Kalaoselvan, A. T. Rao and K. Srinivasa Rao

Field study of Alkaline Plutons in Tamil Nadu and Andhra Pradesh, South India, 1997-1998. 205-214.

Article 13. B. V. C.moses, V. Ram Mohan and Yoshida Masaru

Geochemical Characteristics of Mafic Granulites and Associated Websterties from the Sittampundi Complex, South India. 215-225.

Article 14. B. Hari Prasad, Okudaira Takamoto, R. S. Divi and Yoshida Masaru

Structural Features of the Archean Nellore-Kammam Schist Belt, Southeast India. 227-235.

Article 15. Rajneesh-Kumar, Okudaira Takamoto, Tani Yasutaka, B. Hari Prasad, R. S. Divi and Yoshida Masaru

Structural Features around the Archean-Proterozoic Terrain Boundary in Khamman District, South India. 237-245.

4-3. その他

<学外での講演>

吉田 勝『 Gondwana 超大陸の歴史を探る』大阪市立大学文化交流センター, 平成 10 年 6 月講座(1998.6.12/19/26).

吉田 勝『 Super Continent Cycle and Global Environmental Change』 Presidency College 特別講演(1998.7.2).

吉田 勝『 超大陸の形成・分裂と地球環境の変遷』 東北大学第 1473 回雑誌会 (1998.12.2).

<研究室からの雑誌・研究連絡誌などの発行>

Gondwana ニュースレター 第 10 号, 奥平敬元, 吉田 勝(編集), Gondwana 研究会(大阪市立大学理学部内)発行, 26 頁.

Gondwana News Letter Nos.10/11, Rajneesh-Kumar and Satish-Kumar, S. (eds.), International Association for Gondwana Research (Osaka), pp. 403-445.

Gondwana Research Vol.1, No.2, Yoshida M. and Santosh M. (eds.), International Association for Gondwana Research (Osaka), 171-311.

Gondwana Research Vol.1, Nos.3/4, Yoshida M. and Santosh M.(eds.), International Association for Gondwana Research (Osaka), 315-450. Abstracts, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India, UNESCO- IUGS-IGCP-368, October 29-30, 1998 (Bhubaneswar, India).

Gondwana Research Group Miscellaneous Publication No. 8, International Seminar on Precambrian Crust in Eastern and Central India, UNESCO-IUGS-IGCP-368, October

29-30, 1998, Bhubaneswar, India. Geological Survey of India (ed.), Field Science Publishers (Osaka), 1-249.

<外国人研究者の招聘>

干 潔博士(中国, 中国科学院鉱物資源探査研究センター)
(招聘者: 篠田圭司)

Prof. D. Mukhopadhyay(インド, カルカッタ大学)1998.9.23-9.30 (招聘者: 吉田 勝, 文部省科学研究費補助金事業)

Prof. G. Ghatak(インド, プレジデンシー大学)1998.9.23-10.6 (招聘者: 吉田 勝, 文部省科学研究費補助金事業)

Prof. S. Dasgupta(インド, ジャダヴプール大学)1998.9.23-9.30. (招聘者: 吉田 勝, ゴンドワナ研究会共同研究事業)

Ms. Chandrabali Mukhopadhyay(インド, カルカッタ大学大学院生)1998.2.24-4.23(招聘者: 吉田 勝, 文部省科学研究費補助金事業)

<実施中の国際共同研究等>

「東ゴンドワナランドの原生代事件」(Proterozoic Events in East Gondwana), IGCP-368(吉田 勝: 提案者・共同リーダー), 30 カ国 260 人参加, 1995-1999.

「ゴンドワナとユーラシアの先カンブリア代変動帯の比較研究」, 日本・ロシア共同研究(吉田 勝: 提案者・共同リーダー), 1995-1999.

「インド中央構造帯のテクトニクス-東ゴンドワナの原生代事件の研究(IGCP-368)-」(吉田 勝: リーダー)文部省科学研究費補助金事業 (国際学術研究), 1998-1999.

<国際シンポジウム等の主催, 座長, 招待・基調講演>

吉田 勝ほか(1998)東ゴンドワナの原生代事件; 国際セミナー「東-中部インドの先カンブリア代地殻」の招待基調講演. インド, ブバネシュワール.

吉田 勝(1998)ゴンドワナ研究会による東ゴンドワナ, インド・南極区の最近の研究; ナショナルセミナー「インド先カンブリア代地質研究の進歩 50 年」の招待講演. インド, カルカッタ. 国際セミナー「東-中部インドの先カンブリア代地殻」第 4 分科会 (同位体地質) (吉田 勝: 座長) 1998.10.3.

国際セミナー「東-中部インドの先カンブリア代地殻」およびフィールドワークショップ(吉田 勝; 共同主催者), 1998.10.20-11.3.

国際フィールドワークショップ「アフリカ南東部のモザンビーク帯」(吉田 勝; 共同主宰者), 1998.7.11-7.18.

<地球学教室交流会>

1986 年より, 教室を構成する教員・職員・研究生・院生・学生の親睦を深めるため, 交流会を開いてきました. 1998 年度は地球学野外実習が 9 月 17 日~21 日に行われ, 初日は淡路島で野島断層等を巡検し, 2 日目から大阪府貝塚市で和泉層群を主な対象とした野外実習が実施されました. これに合わせて, 交流会が 9 月 18 日の夕~夜に, 宿舎である松葉荘大広間で行われました. 本学から近いこともあって多くの参加者があり, 楽しく・有意義な交流会となりました. 参加者は 1 回生 14 名, 2 回生 11 名, 3 回生(編入学生も含む) 14 名, 4 回生・聴講生・院生 12 名, 教員 8 名でした. (根本)

<地球スキーの会>

1999 年 3 月 6 日~3 月 8 日に長野県白馬村の大阪市立大学白馬セミナーハウスでスキーを通じて親睦会が開かれました. 今回はインドからの本学留学生・静岡大学留学生の

なかにスキーは初めてという学生も含まれ, 吉田教授がスキー指導員となるスキー教室も開催されました. 3 日目にはほとんどの初心者・初級者が中級者・上級者と一緒に中級コースを滑れるほどまでに上達し, 適切な指導を受ける大切さが実感出来ました. 第 1 日目は晴天で, 下の方の雪の状態は悪かったのですが, 2 日目に降雪があり, 新雪も楽しむことが出来ました. 3 日目は参加者全員で山頂まであがり滑ることが出来ました. 参加者は本学から教職員 3 名, 学部生・院生とその家族 10 名, 静岡大学から本学 OB を含めて 5 名, 島根大学から本学 OB 家族 5 名, 本学 OB・OG 2 名の合計 25 名でした. (根本)

地球学教室教職員等連絡先

地球学教室への問い合わせや論文別刷りの請求等は, 本年度教室主任(八尾 昭)あるいは関係の教員等, 下記連絡先へお願いします(Tel. および Fax. は最初に 06-6605 を, E-mail は@の後ろに sci.osaka-cu.ac.jp をつけて下さい).

[地球物質進化学講座]

相川信之	Tel. 2587; Fax. 3174; E-mail: aikawa@
益田晴恵	Tel. 2591; Fax. 2522; E-mail: harue@
篠田圭司	Tel. 3173; Fax. 3174; E-mail: shinoda@
吉田 勝	Tel. 2595; Fax. 3182; E-mail: myoshida@
古山勝彦	Tel. 3179; Fax. 3183; E-mail: furuyama@
奥平敬元	Tel. 3181; Fax. 2522; E-mail: oku@
八尾 昭	Tel. 2604; Fax. 2604; E-mail: yao@
前島 涉	Tel. 2596; Fax. 2522; E-mail: maejima@
江崎洋一	Tel. 3184; Fax. 2522; E-mail: ezaki@

[環境地球学講座]

熊井久雄	Tel. 2589; Fax. 3176; E-mail: kumai@
吉川周作	Tel. 2590; Fax. 3176; E-mail: yoshi@
三田村宗樹	Tel. 2592; Fax. 2522; E-mail: mitamura@
中川康一	Tel. 2588; Fax. 2522; E-mail: knaka@
根本泰雄	Tel. 3194; Fax. 2522; E-mail: nemo@
宇田英雄	Tel. 3175; Fax. 2522; E-mail: uda@
塩野清治	Tel. 2594; Fax. 3071; E-mail: shino@
升本眞二	Tel. 3178; Fax. 3071; E-mail: masumoto@
Venkatesh Ragahavan	Tel. 3381; Fax. 06(6690) 2736; E-mail: raghavan@media.osaka-cu.ac.jp

理学研究科・理学部 事務室

Tel. 06(6605)2501; Fax. 06(6605)2522

地球学教室ニュースレター No. 7, 1999 年 6 月 20 日

編 集 地球学教室ニュースレター編集委員会

代表編集委員 升本眞二

編集委員 篠田圭司・古山勝彦・八尾 昭・吉川周作
根本泰雄

発 行 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部
生物地球系専攻地球学教室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138